

# 調査結果の概要

## 1 要 旨

平成15年産主要果樹の結果樹面積は23万8,400haで、前年産に比べて3,900ha（2%）減少した。

これは、すもも、おうとう及びうめは新植や改植されたものが結果樹齢に達し増加したものの、他の果樹が老木園の廃園があったこと等による。

収穫量は348万1,000tで、前年産に比べて21万3,000t（6%）減少した。

これは、りんごにおいて6月下旬以降の低温・日照不足の影響により果実の肥大が抑制されたことに加え、青森県で9月の台風第14号の影響により落果が多かったことや、日本なしにおいて6月下旬以降の低温・日照不足の影響によりみつ症が発生したこと等による。

出荷量は307万1,000tで、前年産に比べて18万1,000t（6%）減少した。

表 1 平成15年産主要果樹の結果樹面積、10a当たり収量、収穫量及び出荷量

単位 { 結果樹面積：ha  
 収穫量・出荷量：t  
 前年産対比：%

品 目	結 果 樹 面 積	10a当たり 収 量	収 穫 量	出 荷 量	前 年 産 対 比			
					結果樹 面 積	10a当 り収量	収穫量	出荷量
1) 計	238 400	…	3 481 000	3 071 000	98	…	94	94
		kg						
み か ん	53 700	2 140	1 146 000	1 014 000	98	104	101	102
な つ み か ん	3 810	1 970	74 900	65 200	96	96	92	92
は っ さ く	2 880	2 150	61 800	52 600	97	102	99	99
い よ か ん	7 650	1 570	119 800	107 600	96	90	86	85
ネーブルオレンジ	1 210	1 230	14 900	12 300	96	95	91	90
り ん ご	41 600	2 020	842 200	747 100	98	93	91	92
日 本 な し	15 700	2 110	332 200	305 300	98	91	88	88
西 洋 な し	1 730	1 950	33 800	30 000	100	109	109	109
か き	24 400	1 090	265 000	212 800	99	99	98	98
び わ	2 020	457	9 240	7 420	97	93	90	90
も も	10 500	1 490	157 000	144 800	99	90	90	89
す も も	3 190	709	22 600	19 700	101	78	78	77
お う と う	3 990	482	19 300	17 100	101	90	91	90
う め	18 200	485	88 300	75 300	101	77	78	78
ぶ ど う	19 400	1 140	220 800	201 400	98	97	95	95
く り	25 300	98	24 600	17 500	99	83	82	81
2) パインアップル	3) 448	2 420	10 800	10 500	98	87	85	85
キウイフルーツ	2 690	1 390	37 400	30 700	97	97	94	94

注：1)は、18品目の合計である。

2)は、沖縄県のみの数値である。

3)は、収穫面積である。

## 2 解説

### (1) みかん

#### ア 結果樹面積

結果樹面積は5万3,700haで、前年産に比べて1,300ha（2%）減少した。

これは、高接更新、改植等したものが結果樹齢に達したことによる増加はあるものの、老木園の廃園に加えて需給調整対策に基づく計画的な改植等が推進されたことによる。

品種別にみると、早生温州及び普通温州は前年産に比べてそれぞれ2%、3%減少し、早生温州のうちハウスみかん及び極早生みかんはそれぞれ2%、1%減少した。

#### イ 10a 当たり収量

10a 当たり収量は2,140kgで、前年産を4%上回った。

これは、前年産に比べて開花数・着果数が多く、結果数が多かったこと等による。

#### ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は114万6,000tで、前年産に比べて1万5,000t（1%）増加した。

品種別にみると、早生温州及び普通温州は前年産に比べてそれぞれ1%、2%増加した。

主要な府県についてみると、愛媛県（全国の収穫量に占める割合17%）、和歌山県（同17%）は前年産に比べてそれぞれ8%、9%増加し、静岡県（同11%）は9%減少した。

出荷量は101万4,000tで、前年産に比べて1万7,500t（2%）増加した。

図1 みかんの結果樹面積及び収穫量の推移

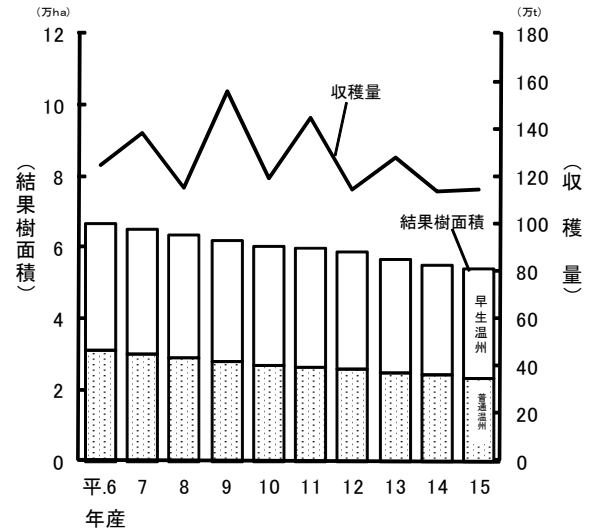


図2 みかんの収穫量の府県別割合

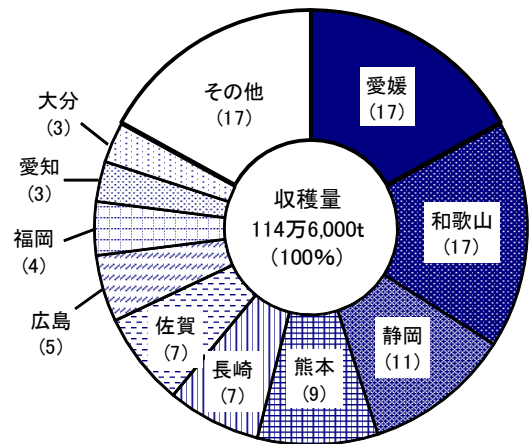


表2 平成15年産みかんの結果樹面積、10a 当たり収量、収穫量及び出荷量

単位 { 結果樹面積: ha  
 収穫量・出荷量: t  
 前年産対比: %

品目	結果樹面積	10a 当たり収量	収穫量	出荷量	前年産対比			
					結果樹面積	10a 当たり収量	収穫量	出荷量
みかん	53 700	2 140	1 146 000	1 014 000	98	104	101	102
早生温州	30 400	2 250	682 000	613 600	98	103	101	100
うち、ハウスみかん	1 200	4 750	56 700	53 800	98	100	98	98
極早生みかん	9 160	1 990	182 500	165 500	99	94	93	92
普通温州	23 300	1 990	464 400	400 000	97	106	102	104

(2) なつみかん

ア 結果樹面積

結果樹面積は3,810haで、前年産に比べて160ha(4%)減少した。

これは、老木園の廃園があったこと等による。

イ 10a 当たり収量

10a 当たり収量は1,970kgで、前年産を4%下回った。

これは、鹿児島県で開花期間中の多雨や強風により受精が悪かったことや、静岡県で着果数が少なかったこと等による。

ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は7万4,900tで、前年産に比べて6,600t(8%)減少した。

主要な府県についてみると、熊本県(全国の収穫量に占める割合25%)、愛媛県(同19%)及び鹿児島県(同13%)は前年産に比べてそれぞれ8%、4%、12%減少した。

出荷量は6万5,200tで、前年産に比べて5,600t(8%)減少した。

図3 なつみかんの結果樹面積及び収穫量の推移

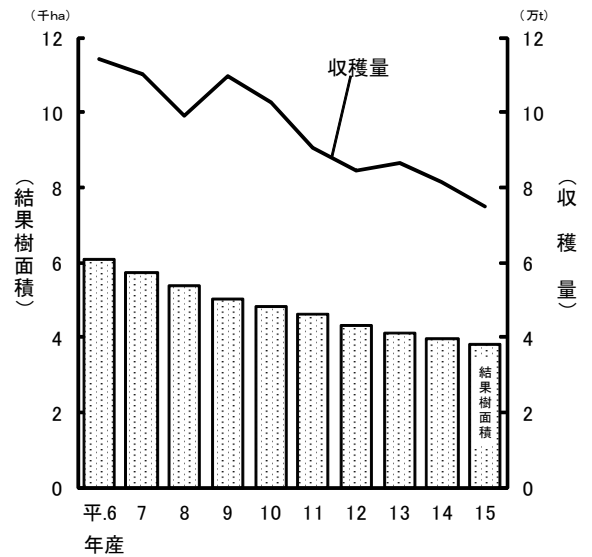


表3 平成15年産なつみかんの結果樹面積、10a 当たり収量、収穫量及び出荷量

単位 { 結果樹面積: ha  
 収穫量・出荷量: t  
 前年産対比: %

品目	結果樹面積	10a 当たり収量	収穫量	出荷量	前年産対比			
					結果樹面積	10a 当たり収量	収穫量	出荷量
なつみかん	3 810	1 970	74 900	65 200	96	96	92	92

(3) はっさく

ア 結果樹面積

結果樹面積は2,880haで、前年産に比べて90ha(3%)減少した。

これは、老木園の廃園があったこと等による。

イ 10a 当たり収量

10a 当たり収量は2,150kgで、前年産を2%上回った。

これは、広島県で作柄の悪かった前年産に比べて着果数が多く、果実の肥大が良好であったこと等による。

### ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は6万1,800tで、前年産に比べて500t（1%）減少した。

主要な府県についてみると、和歌山県（全国の収穫量に占める割合61%）及び愛媛県（同8%）は前年産に比べてそれぞれ1%、5%減少し、広島県（同11%）は4%増加した。

出荷量は5万2,600tで、前年産に比べて600t（1%）減少した。

図4 はっさくの結果樹面積及び収穫量の推移

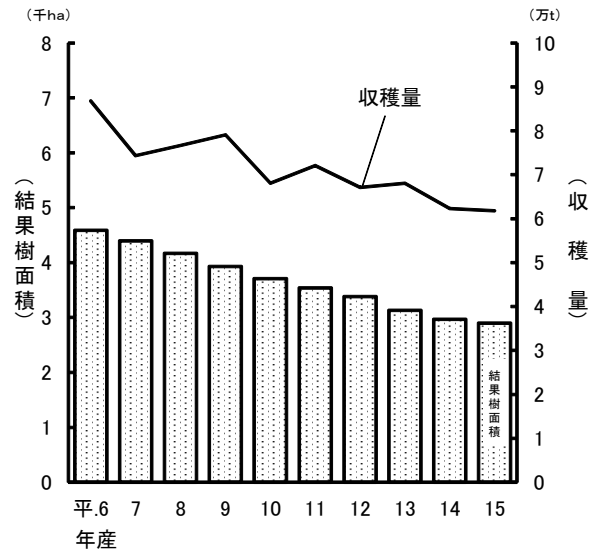


表4 平成15年産はっさくの結果樹面積、10a当たり収量、収穫量及び出荷量

単位 { 結果樹面積: ha  
 収穫量・出荷量: t  
 前年産対比: %

品目	結果樹面積	10a当たり収量	収穫量	出荷量	前年産対比			
					結果樹面積	10a当たり収量	収穫量	出荷量
はっさく	2 880	2 150 kg	61 800	52 600	97	102	99	99

### (4) いよかん

#### ア 結果樹面積

結果樹面積は7,650haで、前年産に比べて350ha（4%）減少した。

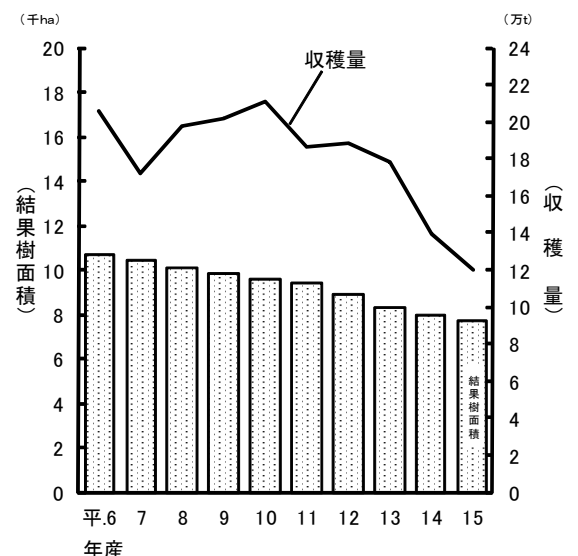
これは、老木園の廃園があったこと等による。

#### イ 10a当たり収量

10a当たり収量は1,570kgで、前年産を10%下回った。

これは、愛媛県で幼果期の台風の強風による傷果や8月下旬から9月中旬の高温・多照による日焼けにより結果数が少なかったこと等による。

図5 いよかんの結果樹面積及び収穫量の推移



### ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は11万9,800tで、前年産に比べて1万9,500t（14%）減少した。

主要な府県についてみると、愛媛県（全国の収穫量に占める割合80%）は、前年産に比べて14%減少した。

出荷量は10万7,600tで、前年産に比べて1万9,300t（15%）減少した。

表5 平成15年産いよかんの結果樹面積、10a当たり収量、収穫量及び出荷量

単位 { 結果樹面積：ha  
 収穫量・出荷量：t  
 前年産対比：%

品目	結果樹面積	10a当たり収量	収穫量	出荷量	前年産対比			
					結果樹面積	10a当たり収量	収穫量	出荷量
いよかん	7 650	1 570	119 800	107 600	96	90	86	85

### (5) ネーブルオレンジ

#### ア 結果樹面積

結果樹面積は1,210haで、前年産に比べて50ha（4%）減少した。

これは、老木園の廃園があったこと等による。

#### イ 10a当たり収量

10a当たり収量は1,230kgで、前年産を5%下回った。

これは、愛媛県で幼果期の台風の強風による傷果や、8月下旬から9月中旬の高温・多照による日焼けにより結果数が少なかったこと等による。

#### ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は1万4,900tで、前年産に比べて1,400t（9%）減少した。

主要な府県についてみると、和歌山県（全国の収穫量に占める割合22%）、広島県（同22%）及び静岡県（同18%）は前年産に比べて共に9%減少した。

出荷量は1万2,300tで、前年産に比べて1,400t（10%）減少した。

図6 ネーブルオレンジの結果樹面積及び収穫量の推移

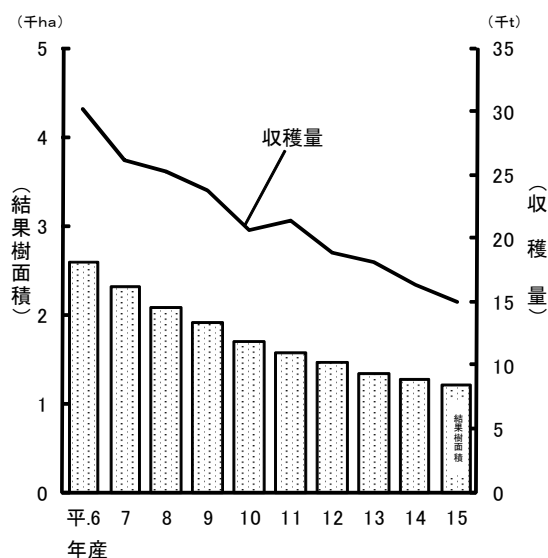


表6 平成15年産ネーブルオレンジの結果樹面積、10a当たり収量、収穫量及び出荷量

単位 { 結果樹面積: ha  
 収穫量・出荷量: t  
 前年産対比: %

品目	結果樹面積	10a当たり収量	収穫量	出荷量	前年産対比			
					結果樹面積	10a当たり収量	収穫量	出荷量
ネーブルオレンジ	1 210	1 230	14 900	12 300	96	95	91	90

(6) りんご

ア 結果樹面積

結果樹面積は4万1,600haで、前年産に比べて800ha(2%)減少した。

品種別にみると、ジョナゴールドは前年産並み、つがる及びふじは前年産に比べて共に2%、王林は1%減少した。

イ 10a当たり収量

10a当たり収量は2,020kgで、前年産を7%下回った。

これは、6月下旬以降の低温・日照不足の影響により果実の肥大が抑制されたことに加え、青森県で9月の台風第14号の影響により落果が多かったことによる。

ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は84万2,200tで、前年産に比べて8万3,600t(9%)減少した。

品種別にみると、つがる、王林及びふじは前年産に比べて共に10%、ジョナゴールドは7%減少した。

主要な府県についてみると、青森県(全国の収穫量に占める割合50%)、長野県(同22%)は前年産に比べてそれぞれ13%、6%減少した。

出荷量は74万7,100tで、前年産に比べて6万2,300t(8%)減少した。

図7 りんごの結果樹面積及び収穫量の推移

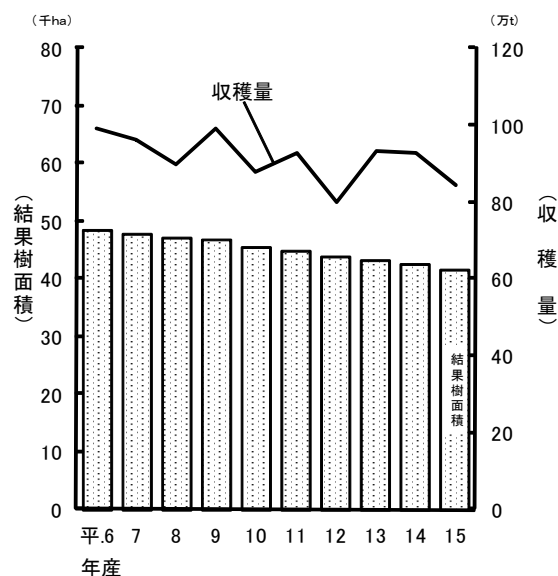


図8 りんごの品種別結果樹面積割合の推移

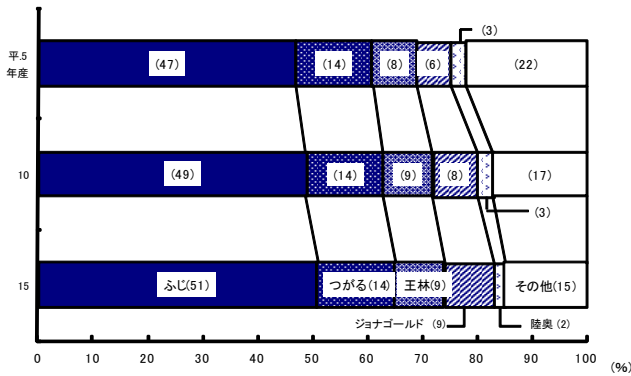


図9 りんごの収穫量の府県別割合

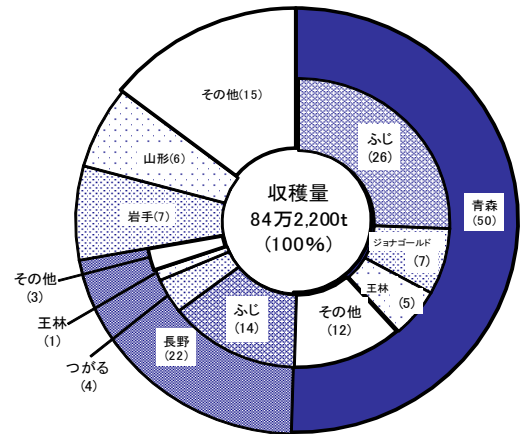


表7 平成15年産りんごの結果樹面積、10a当たり収量、収穫量及び出荷量

単位 { 結果樹面積: ha  
 収穫量・出荷量: t  
 前年産対比: %

品目	結果樹面積	10a当たり収量	収穫量	出荷量	前年産対比			
					結果樹面積	10a当たり収量	収穫量	出荷量
りんご	41 600	2 020	842 200	747 100	98	93	91	92
つがる	5 690	1 870	106 300	93 800	98	93	90	90
王林	3 900	1 870	72 800	65 800	99	91	90	90
ジョナゴールド	3 660	2 260	82 600	74 600	100	93	93	93
ふじ	21 300	2 170	462 000	407 600	98	92	90	93
陸奥	956	1 850	17 700	15 600	91	89	80	81
その他	6 170	1 630	100 800	89 600	97	99	96	96

(7) 日本なし

ア 結果樹面積

結果樹面積は1万5,700haで、前年産に比べて400ha(2%)減少した。

これは、老木園の廃園があったこと等による。

品種別にみると、新高は前年産並み、幸水、豊水及び二十世紀は前年産に比べてそれぞれ2%、1%、7%減少した。

イ 10a当たり収量

10a当たり収量は2,110kgで、前年産を9%下回った。

これは、6月下旬以降の低温・日照不足の影響によりみつ症が発生したこと等による。

ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は33万2,200tで、前年産に比べて4万3,500t(12%)減少した。

品種別にみると、幸水、豊水、二十世紀及び新高は前年産に比べてそれぞれ7%、20%、15%、1%減少した。

主要な府県についてみると、茨城県(全国の収穫量に占める割合10%)、千葉県(同10%)及び鳥取県(同9%)は前年産に比べてそれぞれ13%、23%、15%減少した。

出荷量は30万5,300tで、前年産に比べて4万700t(12%)減少した。



図10 日本なしの結果樹面積及び収穫量の推移

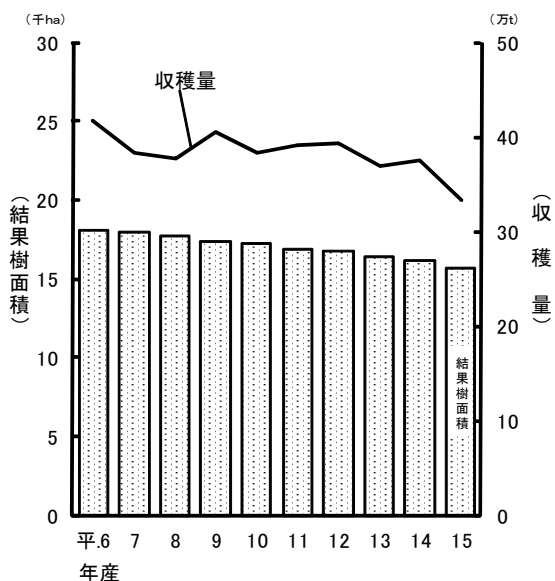


図11 日本なしの品種別結果樹面積割合の推移

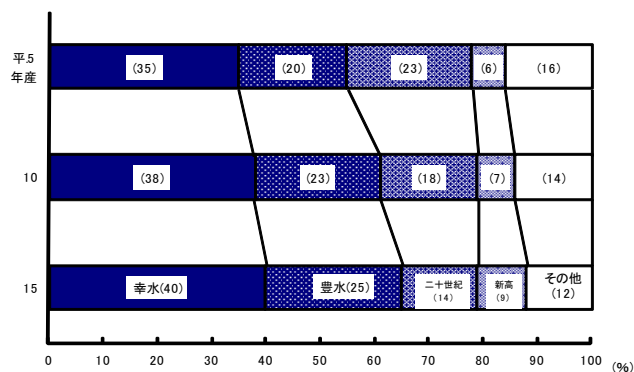


表 8 平成15年産日本なしの結果樹面積、10a 当たり収量、収穫量及び出荷量

単位 { 結果樹面積 : ha  
 収穫量・出荷量 : t  
 前年産対比 : %

品 目	結 果 樹 面 積	10a 当 たり 収 量	収 穫 量	出 荷 量	前 年 産 対 比			
					結 果 樹 面 積	10a 当 たり 収 量	収 穫 量	出 荷 量
日 本 な し	15 700	2 110	332 200	305 300	98	91	88	88
幸 水	6 210	1 970	122 200	114 100	98	94	93	93
豊 水	3 990	2 230	88 700	82 000	99	81	80	79
二 十 世 紀	2 200	2 130	46 800	42 400	93	92	85	86
新 高	1 350	2 550	34 300	31 800	100	99	99	99
そ の 他	1 980	2 030	40 200	35 000	97	95	93	92

(8) 西洋なし

ア 結果樹面積

結果樹面積は1,730haで、前年産並みとなった。

イ 10a 当たり収量

10a 当たり収量は1,950kgで、前年産を9%上回った。

これは、開花期間中おおむね天候に恵まれたことから開花・受精が良好で、作柄の悪かった前年産に比べて着果数が多かったことによる。

ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は3万3,800tで、前年産に比べて2,800t（9%）増加した。

主要な府県についてみると、山形県（全国の収穫量に占める割合64%）は前年産に比べて14%増加した。

出荷量は3万tで、前年産に比べて2,500t（9%）増加した。

図12 西洋なしの結果樹面積及び収穫量の推移

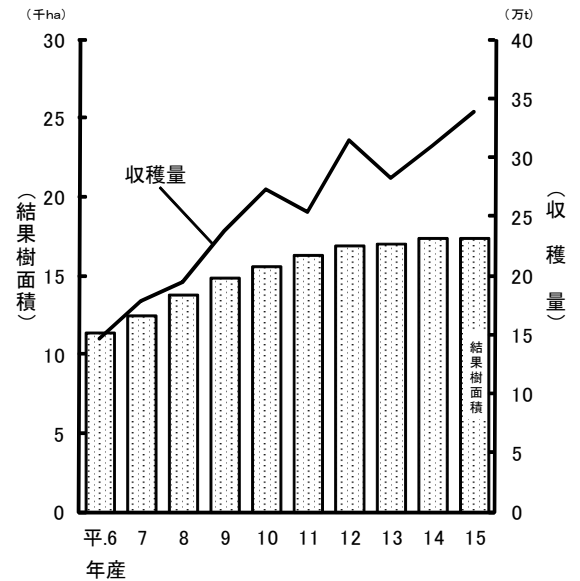


表9 平成15年産西洋なしの結果樹面積、10a当たり収量、収穫量及び出荷量

単位 { 結果樹面積: ha  
 収穫量・出荷量: t  
 前年産対比: %

品 目	結 果 樹 面 積	10a 当 たり 収 量	収 穫 量	出 荷 量	前 年 産 対 比			
					結果樹面積	10a 当 たり 収 量	収 穫 量	出 荷 量
西 洋 な し	1 730	1 950	33 800	30 000	100	109	109	109
ラ・フランス	1 130	2 130	24 000	21 400	...	...	...	...
パートレット	149	1 330	1 980	1 730	...	...	...	...
そ の 他	452	1 730	7 820	6 850	...	...	...	...

注：西洋なしの品種別については、平成15年産から調査を開始したため前年産対比を行っていない。

(9) かき

ア 結果樹面積

結果樹面積は2万4,400haで、前年産に比べて100ha（1%）減少した。

品種別にみると、刀根早生は前年産に比べて1%増加し、富有・次郎は前年産並み、西村早生及び平核無はそれぞれ4%、1%減少した。

イ 10a 当たり収量

10a 当たり収量は1,090kgで、前年産を1%下回った。

これは、福岡県で作柄の悪かった前年産を上回ったものの、愛知県で着果数が少なく9月下旬の降雨により病害が発生し落果が多かったこと等による。

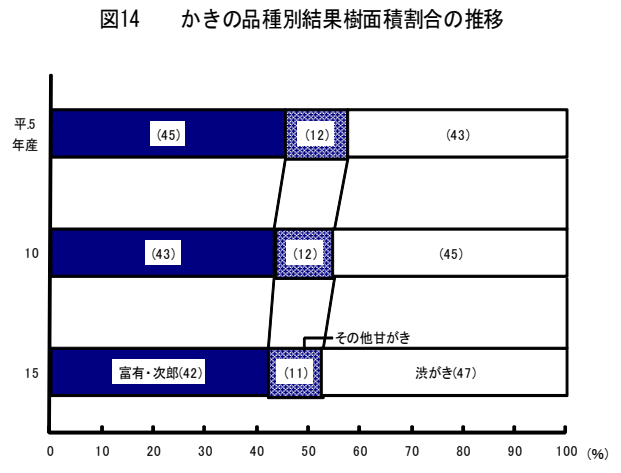
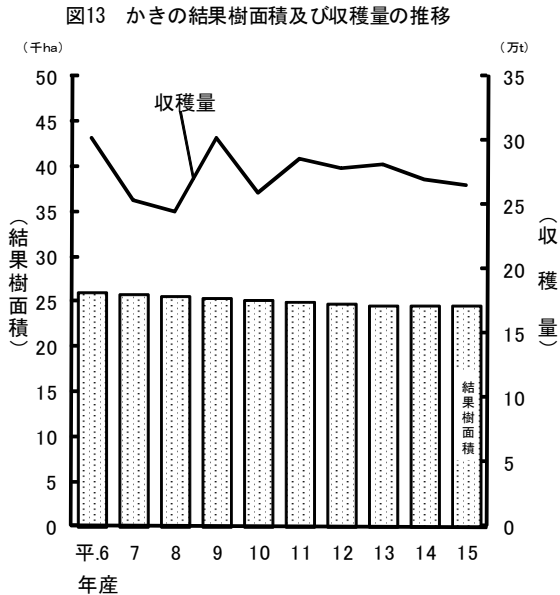
ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は26万5,000 tで、前年産に比べて4,300 t（2%）減少した。

品種別にみると、富有・次郎は前年産に比べて3%増加し、西村早生、平核無及び刀根早生はそれぞれ7%、6%、2%減少した。

主要な府県についてみると、和歌山県（全国の収穫量に占める割合22%）は前年産に比べて1%減少し、奈良県（同11%）、福岡県（同10%）はそれぞれ4%、18%増加した。

出荷量は21万2,800 tで、前年産に比べて4,800 t（2%）減少した。



注) 「その他甘がき」は、表10の「西村早生」及び「その他甘がき」の合計であり、「渋がき」は、「平核無」、「刀根早生」及び「その他渋がき」の合計である。

表10 平成15年産かきの結果樹面積、10a当たり収量、収穫量及び出荷量

単位 { 結果樹面積: ha  
 収穫量・出荷量: t  
 前年産対比: %

品目	結果樹面積	10a当たり収量	収穫量	出荷量	前年産対比			
					結果樹面積	10a当たり収量	収穫量	出荷量
かき	24 400	1 090	265 000	212 800	99	99	98	98
富有	8 750	1 040	91 200	73 100	} 100	103	103	103
次郎	1 530	859	13 100	9 120				
西村早生	868	991	8 600	6 670	96	96	93	92
その他甘がき	1 710	688	11 700	7 460	98	102	100	100
平核無	3 140	1 300	40 900	35 500	99	95	94	94
刀根早生	2 600	1 960	50 700	45 600	101	97	98	98
その他渋がき	5 800	841	48 800	35 500	99	95	95	91

注) 平成15年産から、「富有・次郎」を「富有」と「次郎」に分けて調査をしたため、これらの品種については「富有・次郎」として前年産対比を行った。

(10) びわ

ア 結果樹面積

結果樹面積は2,020haで、前年産に比べて60ha（3%）減少した。

これは、老木園の廃園があったことによる。

イ 10a 当たり収量

10a 当たり収量は457kgで、前年産を7%下回った。

これは、長崎県で4月から5月の日照不足の影響により果実の肥大が抑制されたこと等による。

ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は9,240tで、前年産に比べて1,060t（10%）減少した。

主要な府県についてみると、長崎県（全国の収穫量に占める割合33%）は前年産に比べて13%減少した。

出荷量は7,420tで、前年産に比べて810t（10%）減少した。

図15 びわの結果樹面積及び収穫量の推移

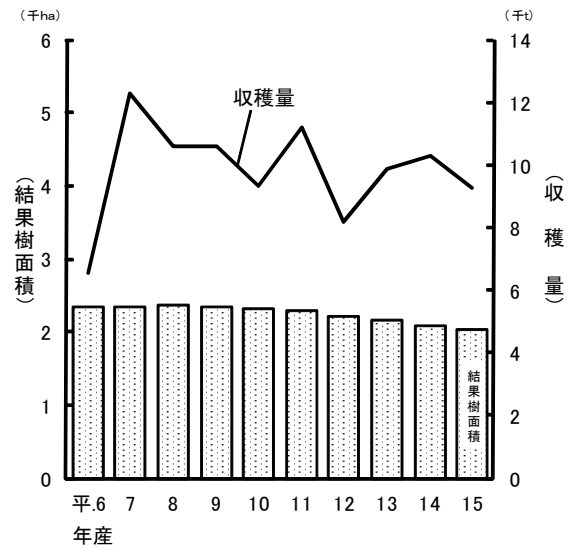


表11 平成15年産びわの結果樹面積、10a 当たり収量、収穫量及び出荷量

単位 { 結果樹面積: ha  
 収穫量・出荷量: t  
 前年産対比: %

品 目	結 果 樹 面 積	10a 当 たり 収 量	収 穫 量	出 荷 量	前 年 産 対 比			
					結 果 樹 面 積	10a 当 たり 収 量	収 穫 量	出 荷 量
び わ	2 020	457	9 240	7 420	97	93	90	90

(11) もも

ア 結果樹面積

結果樹面積は1万500haで、前年産に比べて100ha（1%）減少した。

イ 10a 当たり収量

10a 当たり収量は1,490kgで、前年産を10%下回った。

これは6月下旬以降の低温・日照不足の影響により生理的落果が多く、結果数が少なかったことによる。

### ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は15万7,000 t で、前年産に比べて1万8,100t (10%) 減少した。

主要な府県についてみると、山梨県（全国の収穫量に占める割合36%）、福島県（同17%）、長野県（同14%）は前年産に比べてそれぞれ6%、18%、11%減少した。

出荷量は14万4,800 t で、前年産に比べて1万7,400 t (11%) 減少した。

図16 ももの結果樹面積及び収穫量の推移

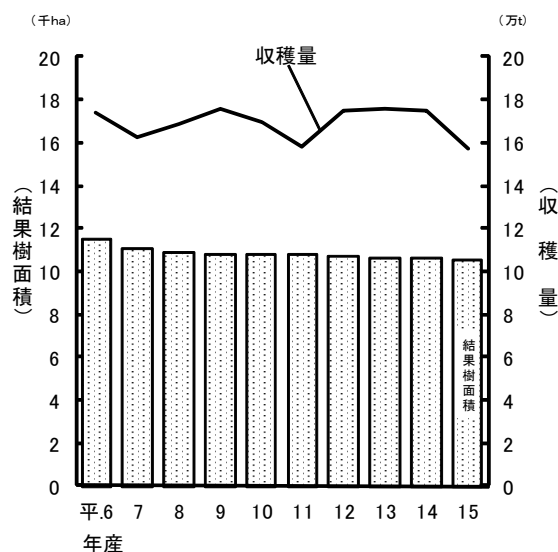


表12 平成15年産ももの結果樹面積、10a 当たり収量、収穫量及び出荷量

単位 { 結果樹面積 : ha  
 収穫量・出荷量 : t  
 前年産対比 : %

品目	結果樹面積	10a 当たり収量	収穫量	出荷量	前年産対比			
					結果樹面積	10a 当たり収量	収穫量	出荷量
もも	10 500	1 490	157 000	144 800	99	90	90	89
白鳳	1 680	1 680	28 200	26 500	...	...	...	...
日川白鳳	855	1 310	11 200	10 500	...	...	...	...
川中島白桃	1 150	1 690	19 500	17 900	...	...	...	...
浅間白桃	464	1 690	7 860	7 460	...	...	...	...
あかつき	1 270	1 550	19 600	18 100	...	...	...	...
その他	5 100	1 380	70 700	64 500	...	...	...	...

注：ももの品種別については、平成15年産から調査を開始したため前年産対比を行っていない。

### (12) すもも

#### ア 結果樹面積

結果樹面積は3,190haで、前年産に比べて10ha (1%) 増加した。

#### イ 10a 当たり収量

10a 当たり収量は709kgで、前年産を22%下回った。

これは、開花期間中の低温・降雨の影響による受精不良で着果数が少なかったこと等による。

### ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は2万2,600tで、前年産に比べて6,400t(22%)減少した。

主要な府県についてみると、山梨県(全国の収穫量に占める割合32%)、和歌山県(同14%)、長野県(同13%)は前年産に比べてそれぞれ27%、23%、19%減少した。

出荷量は1万9,700tで、前年産に比べて5,800t(23%)減少した。

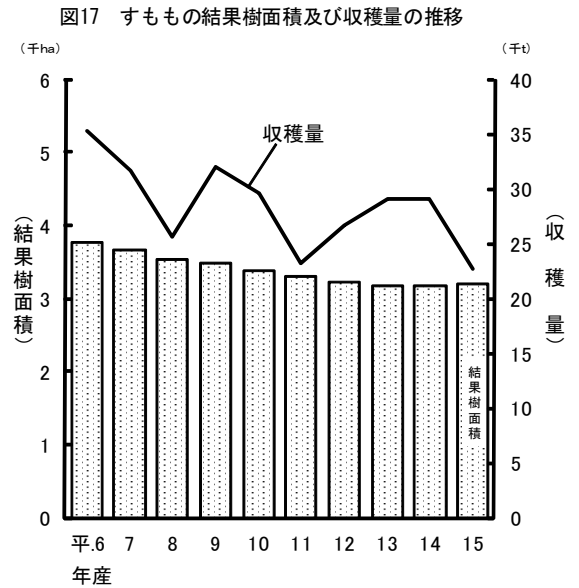


表13 平成15年産すももの結果樹面積、10a当たり収量、収穫量及び出荷量

単位 { 結果樹面積 : ha  
 収穫量・出荷量 : t  
 前年産対比 : %

品目	結果樹面積	10a当たり収量	収穫量	出荷量	前年産対比			
					結果樹面積	10a当たり収量	収穫量	出荷量
すもも	3 190	709 kg	22 600	19 700	101	78	78	77

### (13) おうとう

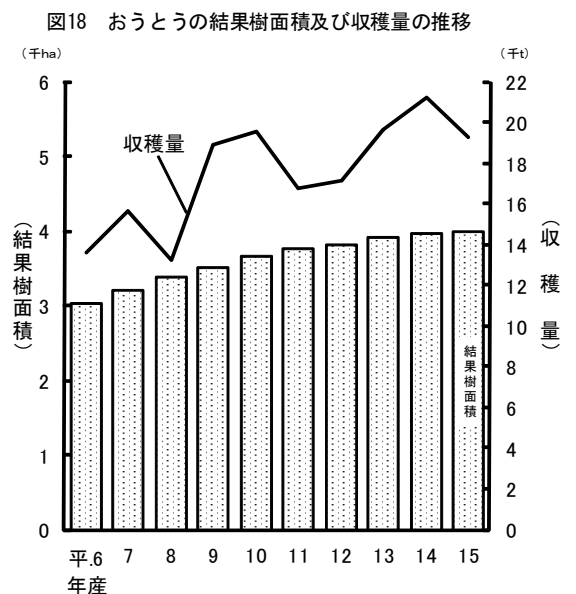
#### ア 結果樹面積

結果樹面積は3,990haで、前年産に比べて20ha(1%)増加した。

#### イ 10a当たり収量

10a当たり収量は482kgで、前年産を10%下回った。

これは、山形県で開花期間中の低温・降雨の影響による受精不良で着果数が少なかったことによる。



### ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は1万9,300 tで、前年産に比べて1,900 t（9%）減少した。

主要な府県についてみると、山形県（全国の収穫量に占める割合73%）は前年産に比べて10%減少した。

出荷量は1万7,100 tで、前年産に比べて1,800 t（10%）減少した。

表14 平成15年産おうとうの結果樹面積、10a当たり収量、収穫量及び出荷量

単位 { 結果樹面積：ha  
 収穫量・出荷量：t  
 前年産対比：%

品目	結果樹面積	10a当たり収量	収穫量	出荷量	前年産対比			
					結果樹面積	10a当たり収量	収穫量	出荷量
おうとう		kg						
佐藤錦	3 990	482	19 300	17 100	101	90	91	90
高砂	2 680	534	14 300	12 700	...	...	...	...
その他	295	345	1 020	876	...	...	...	...
その他	1 020	388	3 960	3 520	...	...	...	...

注：おうとうの品種別については、平成15年産から調査を開始したため前年産対比を行っていない。

## (14) うめ

### ア 結果樹面積

結果樹面積は1万8,200haで、前年産に比べて300ha（1%）増加した。

### イ 10a当たり収量

10a当たり収量は485kgで、前年産を23%下回った。

これは、和歌山県で開花期間中の低温の影響による受精不良で着果数が少なかったこと等による。

### ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は8万8,300 tで、前年産に比べて2万4,300 t（22%）減少した。

主要な府県についてみると、和歌山県（全国の収穫量に占める割合55%）は前年産に比べて25%減少した。

出荷量は7万5,300 tで、前年産に比べて2万900 t（22%）減少した。

図19 うめの結果樹面積及び収穫量の推移

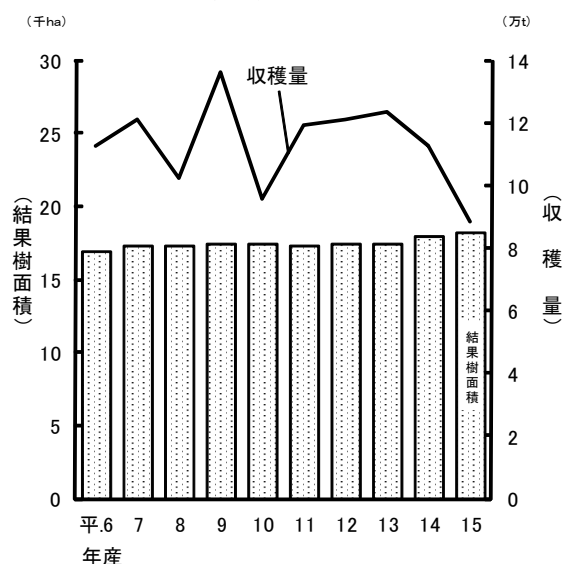


表15 平成15年産うめの結果樹面積、10a当たり収量、収穫量及び出荷量

単位 { 結果樹面積：ha  
 収穫量・出荷量：t  
 前年産対比：%

品目	結果樹面積	10a当たり収量	収穫量	出荷量	前年産対比			
					結果樹面積	10a当たり収量	収穫量	出荷量
うめ	18 200	485	88 300	75 300	101	77	78	78
南高	4 730	952	45 000	42 200	...	...	...	...
白加賀	3 220	346	11 100	8 560	...	...	...	...
その他	10 200	314	32 200	24 500	...	...	...	...

注：うめの品種別については、平成15年産から調査を開始したため前年産対比を行っていない。

(15) ぶどう

ア 結果樹面積

結果樹面積は1万9,400haで、前年産に比べて300ha（2%）減少した。

品種別にみると、ピオーネは前年産に比べて4%増加し、巨峰は前年産並み、デラウェアは5%減少した。

イ 10a当たり収量

10a当たり収量は1,140kgで、前年産を3%下回った。

これは、6月下旬以降の低温・日照不足及び降雨の影響により裂果が発生し、着房数が少なかったこと等による。

ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は22万800tで、前年産に比べて1万900t（5%）減少した。

品種別にみると、ピオーネは2%増加し、デラウェア及び巨峰は前年産に比べてそれぞれ9%、1%減少した。

主要な府県についてみると、山梨県（全国の収穫量に占める割合25%）、山形県（同9%）は前年産に比べてそれぞれ5%、9%減少し、長野県（同15%）は1%増加した。

出荷量は20万1,400tで、前年産に比べて1万900t（5%）減少した。

図20 ぶどうの結果樹面積及び収穫量の推移

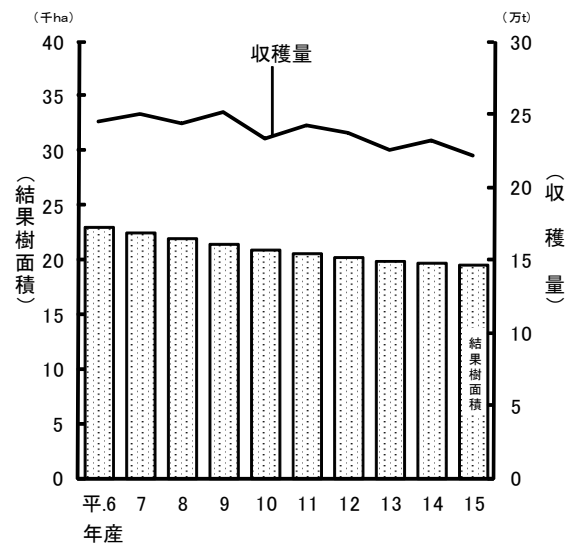


図21 ぶどうの品種別結果樹面積割合の推移

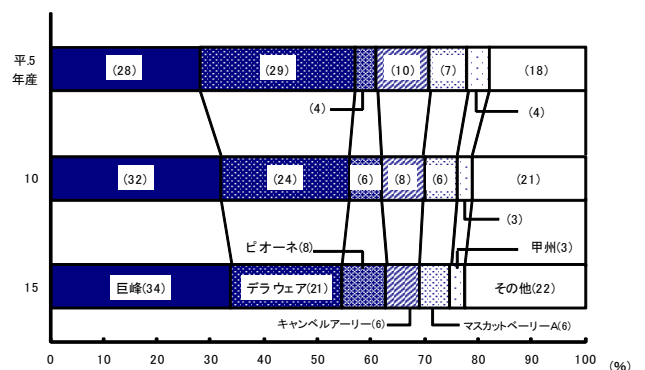




表16 平成15年産ぶどうの結果樹面積、10a当たり収量、収穫量及び出荷量

単位 { 結果樹面積 : ha  
 収穫量・出荷量 : t  
 前年産対比 : %

品目	結果樹面積	10a当たり収量	収穫量	出荷量	前年産対比			
					結果樹面積	10a当たり収量	収穫量	出荷量
		kg						
ぶどう	19 400	1 140	220 800	201 400	98	97	95	95
テラウエア	3 980	1 060	42 200	38 500	95	95	91	90
キャンベルアーリー	1 200	1 100	13 200	11 500	94	102	96	95
マスカットベリー-A	1 110	1 180	13 000	11 800	94	91	86	85
甲州	539	1 500	8 090	7 300	96	94	90	90
巨峰	6 580	1 150	75 300	69 500	100	100	99	99
甲斐路	350	1 550	5 420	5 050	97	97	94	94
ピオーネ	1 630	1 270	20 600	18 700	104	98	102	102
その他	4 040	1 070	43 000	39 000	101	94	95	94

(16) くり

ア 結果樹面積

結果樹面積は2万5,300haで、前年産に比べて300ha(1%)減少した。

イ 10a当たり収量

10a当たり収量は98kgで、前年産を17%下回った。

これは、6月下旬以降の低温・日照不足の影響により生理的落きゅう(毬)が多く、結きゅう(毬)数が少なかったことによる。

ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は2万4,600tで、前年産に比べて5,500t(18%)減少した。

主要な府県についてみると、茨城県(全国の収穫量に占める割合20%)、熊本県(同16%)及び愛媛県(同9%)は前年産に比べてそれぞれ26%、8%、16%減少した。

出荷量は1万7,500tで、前年産に比べて4,100t(19%)減少した。

図22 くりの結果樹面積及び収穫量の推移

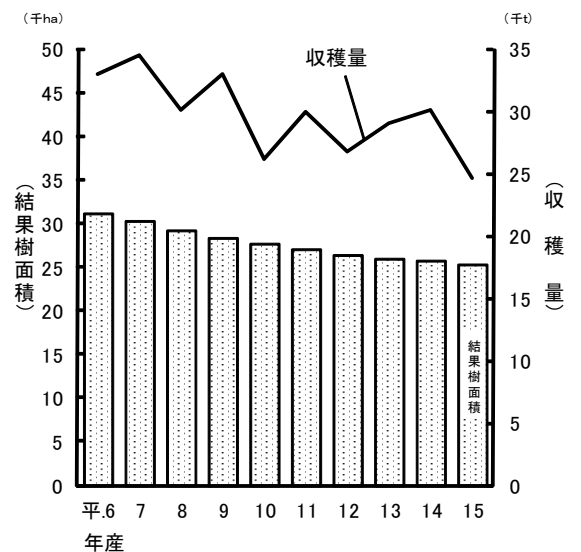


表17 平成15年産くりの結果樹面積、10a当たり収量、収穫量及び出荷量

単位 { 結果樹面積 : ha  
 収穫量・出荷量 : t  
 前年産対比 : %

品目	結果樹面積	10a当たり収量	収穫量	出荷量	前年産対比			
					結果樹面積	10a当たり収量	収穫量	出荷量
くり	25 300	kg 98	24 600	17 500	99	83	82	81

(17) パインアップル (沖縄県)

ア 収穫面積

収穫面積は448haで、前年産に比べて9 ha (2%) 減少した。

これは、改植があったこと等による。

イ 10a当たり収量

10a当たり収量は2,420kgで、前年産を13%下回った。

これは、平成14年9月の台風第16号の影響により樹勢が低下し、夏果の着果数が減少したことによる。

ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は1万800tで、前年産に比べて1,900t (15%) 減少した。

出荷量は1万500tで、前年産に比べて1,800t (15%) 減少した。

図23 パインアップルの収穫面積及び収穫量の推移

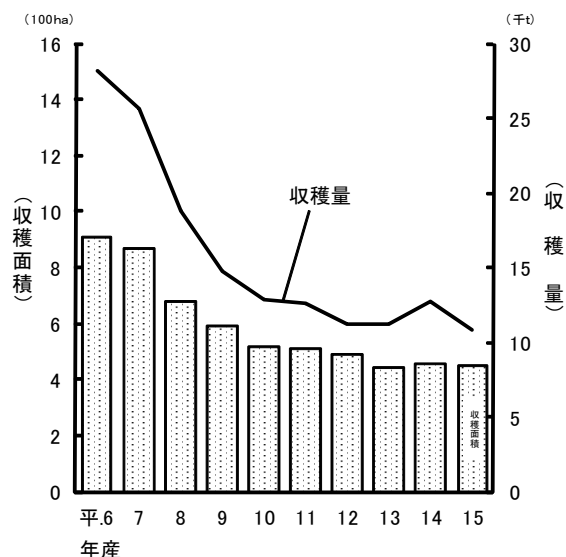


表18 平成15年産パインアップルの収穫面積、10a当たり収量、収穫量及び出荷量

単位 { 収穫面積 : ha  
 収穫量・出荷量 : t  
 前年産対比 : %

品目	収穫面積	10a当たり収量	収穫量	出荷量	前年産対比			
					収穫面積	10a当たり収量	収穫量	出荷量
パインアップル	448	kg 2 420	10 800	10 500	98	87	85	85

(18) キウイフルーツ

ア 結果樹面積

結果樹面積は2,690haで、前年産に比べて70ha（3%）減少した。

これは、老木園の廃園があったこと等による。

イ 10a 当たり収量

10a 当たり収量は1,390kgで、前年産を3%下回った。

これは、愛媛県や神奈川県で受精不良で結果数が少なかった前年産に比べて結果数が多かったものの、福岡県で受精不良により結果数が少なく、6月下旬以降の低温・日照不足や8月下旬から9月中旬の高温・少雨により果実の肥大が抑制されたこと等による。

ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は3万7,400tで、前年産に比べて2,200t（6%）減少した。

主要な府県についてみると、愛媛県（全国の収穫量に占める割合24%）は前年産に比べて5%増加し、福岡県（同16%）は12%減少した。

出荷量は3万700tで、前年産に比べて1,900t（6%）減少した。

図24 キウイフルーツの結果樹面積及び収穫量の推移

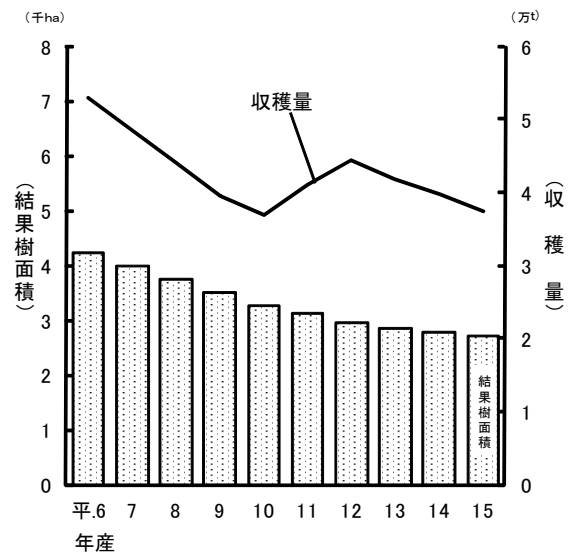


表19 平成15年産キウイフルーツの結果樹面積、10a 当たり収量、収穫量及び出荷量

単位 { 結果樹面積: ha  
 収穫量・出荷量: t  
 前年産対比: %

品目	結果樹面積	10a 当たり収量	収穫量	出荷量	前年産対比			
					結果樹面積	10a 当たり収量	収穫量	出荷量
キウイフルーツ	2 690	1 390	37 400	30 700	97	97	94	94